



ロボット技術の将来に期待！

碓氷 光男*

昨年5月よりエレクトロニクス実装学会誌の編集委員長を拝命し、1年以上が経過いたしました。会員の皆さまに役立つ情報を提供する学会誌を目指し、企画・編集活動を進めてまいりましたが、その活動の一環として、会員の皆さまに本学会誌のことをより理解していただくための学会誌専用サイト (<http://j-jiep.information.jp/>) の構築を進めております。本学会サイト (<http://www.e-jisso.jp/index.html>) からリンクされており、最新号の特集内容や論文投稿の詳細などについて、わかりやすく解説しておりますので、一度ご覧になっていただければ幸いです。

さて、本学会誌9月号は、毎年編集委員会自らが企画する小特集を組むことになっており、昨年は「ウェアラブルデバイス技術」、そして今回は「最新のロボット技術」を取り上げました。「ロボット」という言葉を聞いて、皆さまは何を頭に思い浮かべるでしょうか。人型の2足歩行ロボットや人間そっくりのアンドロイドでしょうか。それとも介護用・救助用ロボットでしょうか。そういったものの他に、最近注目されている自動運転システムや産業用ドローンなどもロボット技術の延長にあると考えられます。私はステレオカメラを用いた安全システムを搭載した自動車に乗っておりますが、その全車速追従機能やレーンキープ機能などは、まさに自動運転の一步手前といった印象であり、日常生活の中にもロボット技術の応用が浸透しつつあるように感じております。

私が将来技術者になりたいと思うようになったのには、日本が世界に誇るテレビアニメーションや特撮テレビドラマの影響がありました。小中学生のときに観た「マジンガーZ」や「機動戦士ガンダム」などの人間が操縦する巨大人型ロボットに衝撃を受けた世代です。それまでの巨大ロボットというと「鉄人28号」のように人間が遠隔で操作するものでした。人間自身がロボットに乗り込み、自動車のように操縦するという概念がとても斬新だったのです。「こんなロボットを作って、自分でも操縦してみたい！」そんな気持ちが、結果として分野は異なりましたが、技術者を目指すきっかけとなったように思います。

フランスの著名なSF作家ジュール・ヴェルヌの名言に「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」とあります。ロボット技術の進歩は、まさにテレビアニメや特撮ドラマ、そしてSF映画などを観て育った世代の人たちが、そこに登場する「ロボット」を自分たちの手で実現することを目指した結果ではないかと感じております。例えば、「ドラえもん」のような人間を助けてくれるパートナーロボットや「ガンダム」のように人間が搭乗して操縦するロボットが日常の生活の中に登場する日は、そう遠い未来ではないかもしれません。

今回の特集号の企画・編集を担当してみて、人とロボットが共存する新しい世界の構築を目指す「ロボット技術の将来」への期待が、さらに大きく膨らんでいます。